

「横」と「縦」で比べる

みなさん、こんにちは。

新年度が始まって2カ月弱が経ちました。1年生も徐々に学校に慣れたように思います。また、他の学年も新たな学年が始まった頃の緊張感が薄れ、「素」の姿が見られるようになってきました。児童の学びや生活の様子を見ていて、これは…と思うときには、私も注意をしますが、その際よく思い出すことがあります。

数年前のことです。テレビを観ていましたら、あるコメンテーターが、子どもを『横』と『縦』で比べる」といった話をされていました。「横で比べる」とは、他の子どもや（大人が）あるべき（と考える）姿と比べること。「縦で比べる」とは、その子自身の以前の姿と今の姿を比べること。そして、大人はつい「横」で比べがちなので、「縦」で比べることを忘れてはいけないというコメントでした。

「横」と「縦」という言葉が分かりやすかったので、今でも鮮明に記憶に残っていますが、コメントの内容自体は教育に携わる者としては決して目新しいものではありません。むしろ、基本的なことと言えます。

ただ、問題はその実践です。私たち大人は、例えば「あれもできてない。これもできていない」などと、子どもを見てしまいがちです。こういうときは、多くの場合「横」で比べていることが多いのではないのでしょうか。逆に、「こういうことができるようになった」というときは「縦」のことが多いと思われれます。ついでに言えば、「できた・できない」だけで比べるのも決していいことではありません。

また、「縦」が良くて「横」は悪い、というつもりもありません。どちらも必要です。要はバランスが大切なのであって、「横だけ」「縦だけ」という具合に「〇〇だけ」という見方も望ましくないことだと思っています。

新学期が始まって2カ月が経ち、学校生活の中で、子どもたちのステキな姿、(いい意味で)意外な姿、こういうところは伸ばしてほしいなと思う姿。一方で、まだまだ課題だなと思う姿も少なからず見られました。

そのたびに「今、自分は『横』だけで見ていないか」とハッとさせられることがよくあります。校長自身がまだまだ精進しないといけないと思う日々です。